20240407　復活節第２主日礼拝

司式:鮎川　健一
奏楽:橋本惠美子

前奏:「キリストは死の縄目につき給えり」(G.ベーム)

招詞:眠りについている者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストはあなたを照らされる。(エフェ5:14)

讃美歌 327「すべての民よ、よろこべ」

罪の告白・赦し

聖霊を求める祈り

朗読聖書①出エジプト記25:1-9

◆幕屋建設の指示

01 主はモーセに仰せになった。
02 イスラエルの人々に命じて、わたしのもとに献納物を持って来させなさい。あなたたちは、彼らがおのおの進んで心からささげるわたしへの献納物を受け取りなさい。
03 彼らから受け取るべき献納物は以下のとおりである。金、銀、青銅、
04 青、紫、緋色の毛糸、亜麻糸、山羊の毛、
05 赤く染めた雄羊の毛皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、
06 ともし火のための油、聖別の油と香草の香とに用いる種々の香料、
07 エフォドや胸当てにはめ込むラピス・ラズリやその他の宝石類である。
08 わたしのための聖なる所を彼らに造らせなさい。わたしは彼らの中に住むであろう。
09 わたしが示す作り方に正しく従って、幕屋とそのすべての祭具を作りなさい。

朗読聖書②コリントの信徒への手紙一16:1-12

◆エルサレム教会の信徒のための募金

01 聖なる者たちのための募金については、わたしがガラテヤの諸教会に指示したように、あなたがたも実行しなさい。
02 わたしがそちらに着いてから初めて募金が行われることのないように、週の初めの日にはいつも、各自収入に応じて、幾らかずつでも手もとに取って置きなさい。
03 そちらに着いたら、あなたがたから承認された人たちに手紙を持たせて、その贈り物を届けにエルサレムに行かせましょう。
04 わたしも行く方がよければ、その人たちはわたしと一緒に行くことになるでしょう。

◆旅行の計画

0:5 わたしは、マケドニア経由でそちらへ行きます。マケドニア州を通りますから、
06 たぶんあなたがたのところに滞在し、場合によっては、冬を越すことになるかもしれません。そうなれば、次にどこに出かけるにしろ、あなたがたから送り出してもらえるでしょう。
07 わたしは、今、旅のついでにあなたがたに会うようなことはしたくない。主が許してくだされば、しばらくあなたがたのところに滞在したいと思っています。
08 しかし、五旬祭まではエフェソに滞在します。
09 わたしの働きのために大きな門が開かれているだけでなく、反対者もたくさんいるからです。
10 テモテがそちらに着いたら、あなたがたのところで心配なく過ごせるようお世話ください。わたしと同様、彼は主の仕事をしているのです。
11 だれも彼をないがしろにしてはならない。わたしのところに来るときには、安心して来られるように送り出してください。わたしは、彼が兄弟たちと一緒に来るのを、待っているのです。
12 兄弟アポロについては、兄弟たちと一緒にあなたがたのところに行くようにと、しきりに勧めたのですが、彼は今行く意志は全くありません。良い機会が来れば、行くことでしょう。

祈祷

天地万物の造り主、真の命にして復活の主なる御子イエス・キリストの父なる御神さま、聖名を褒め称え賛美致します。

御子イエスの十字架にあるご受難から主の御復活を覚え、新たに復活節を進みます。感謝致します。あなたは御子の命と共に、私たちに新たな命を与えてくださり、私たちは主の御声に聴き従って、この場へと召し集められました。過ぐる一週間も、主の御心により守られ、重ねて感謝致します。それでも思い起こす日々に主の御心を、赦しを、希う者です。欠けや弱さの尽きない私たちであっても、主なる神は私たちを見守り、また猶予を以て、この時を備えてくださいました。これより後も、主なる神の御光の内に歩むことが許されますように。

また、この世の様々に起こる出来事は、あなたの審きから免れません。尚、主に招かれた私たちは、心騒ぎ、憂う出来事に見舞われても、主にある民として、世界の平和、また日本の平和のためにも祈ります。未だ世界情勢の変化や混乱の激しさにあって、不安や苦しみ、また悲しみ、困窮の最中にある人々に、主の慰めと癒しが特別にありますように。世界の人々が、共に主を見上げ、主の平和に生きる者となりますよう願います。

また世界規模で日々の生活が失われる人々が後を絶ちません。主の御自愛の下、祝福の内に歩めますように。その中にあって、キリストに従いゆく者として、主の御心に適った行いが為せますように。また心にありつつも、この場に集い得ない人々、様々な思いにあって遠のいてしまっている人々にも主の御手が差し伸べられ、福音に生きる希望にありますように。

これより、佃雅之牧師の口を通して御言葉が取り次がれます。主の御霊の導きを豊かに受け、聴く私たちも御言葉に新たに生かされ、希望を以て歩めますように。

復活の主にあって、主の御国を待ち望みつつ、マラナ・タ(主よ、来たりませ)と、願います。復活の主、イエス・キリストの御名によって御前にお献げいたします。アーメン。

長老任職式（増田多可子）

讃美歌:393「こころを一つに」

説教:「主の仕事」　　佃　雅之

2022年4月から読み始めました『コリントの信徒への手紙一』ですが、いよいよ、最後の16章になりました。パウロはこの手紙の最後に、愛の絆について教えています。具体的には、パウロと教会、教会と教会、そして弟子のテモテ、同労者であるアポロとの絆です。共に復活を信じた者同士の連帯の絆を教えています。その一つが『募金について』です。

今日の個所には「募金」と訳されていますが、聖書はこの言葉(λογεία)に様々な意味を持たせています。「贈り物」・「施し」あるいは「奉仕」、その他の表現もあります。大事なことは、いずれの言葉にも『献金』という意味が含まれていることです。私たちも献金をします。この礼拝でもお献げします。私たちにとっての献金とは何か、献金とは『献身』のしるしです。献金を通して信仰を告白するのが信仰者であります。お金に限らず品物である場合

もあります。あるいは「**奉仕**」とも訳されるように、時に、時間や労働を献げることもあります。全ては主が創造されたものです。天にある物、地にある物、海に充ちる物も、私たちも、全ては主の物です。私たちが今持っている物は全て万物の創造者である主からの『**贈り物**』です。中には、自分の力で、自分の努力や能力で獲得したと思っている方も居るかも知れませんが、自分の意志や力でこの世に生まれてきた人は一人も居ません。私たち一人ひとりを生きる物として下さるのは神であります。生まれた時には裸であった者を、一言も喋れなかった者を成長させてくださった神、私たちは代金を払うことなくタダで今を得ています。私たちを生きる物としてくださった神は、私たちを用いて『**神の国**』を建てようとされています。神の国の完成のために私たちは献金によって、奉仕によって、実際に私たち自身が生かされ、神に用いられているという経験をさせて戴くのです。具体的な経験を通して私たちは喜びを知ることが出来ます。献げることは犠牲的な行為ではなく神への感謝であります。生きておられる主と私たちとの生きた関係を造り上げます。この生ける神のお働きに対する感謝の応答、それが献金です。

パウロは時々、献金を意味するものとして「**コイノニア**(κοινωνία)」という言葉を使うこともあります。**コイノニア**は「**交わり**」と訳される言葉です。献金とはイエス・キリストとの交わりを意味します。キリストとの生きた交わりを知ることが教会の活動と成長にとって重要なことなのです。私たちに求められていることは、自分が満たされることを考えるのではなく、“**私は何を与えられるのか**”、“**私は何を献げることが出来るのか**”ということを常に考えることであります。

私たちの信仰の具体的な表れが献金とその用いられ方です。キリストの体である教会は神の恵みによって支えられ、この世に存在しています。今朝の個所では、「**聖なる者たちのための募金**」と、話を切り出しています。「**聖なる者たち**」というのはパウロの手紙では特別な意味があります。最初に誕生した教会、キリスト信仰の始まった『**エルサレム教会**』のことを指す言葉です。コリント教会がエルサレム教会に献金を贈ることは、同じ信仰に生きていることの具体的なしるしとなります。教会と教会の絆を強めます。全ての教会は主にある交わりの中に置かれています。

パウロはここで献金をどのように集めるか、細かな注意を与えます。献金にはその人と教会との係わりや、その人の教会に対する価値観がはっきり映し出されるからです。「**週の初めの日にはいつも、各自収入に応じて、幾らかずつでも手もとに取って置きなさい**」とパウロは勧めています。「**週の初め**」、日曜日の礼拝の時にいっぺんに集めるのではなく、積み立てるということは、募金が、ただ経済的な援助を目的としたものではなく、時間をかけて、祈りと愛を込めることの教えです。募金というのは慌てて財布から出すものではなく、祈りつつ、予め用意しておくものなのです。どの教会にも経済的に恵まれた人も居れば、日々の暮らしに苦しんでいる人も居ます。私たちは、その一人ひとりの生活全てを見極めることは出来ませんから、丁寧な説明が必要となります。経済的な事柄には慎重な配慮が求められるのです。お金に関わることは教会に亀裂を生む事柄でもあるからです。

今日は今年度初めの礼拝です。私たちも、この一年の自分の生活をしっかり見つめて、先ず、献金額を決めることは大切なことです。聖書には、収穫の十分の一を献げることが勧められています(レビ 27:30 ほか)。教会の会員ハンドブックにも、このことが書かれています。キリスト者は復活の新しい命に生きるのですから、大切なことは献金に神への感謝の思いを込めることです。献金には神への感謝と信頼が映し出されます。しかし、人間の目に映る表面的な金額で信仰を測ることは出来ません。

ここでパウロは、募金を集めることだけでなく、届ける方法も慎重に考えます。募金というものは、“**ただ集まればいい**”、“**ただ届ければいい**”では駄目なのです。4節と5節に「**行く**(πορεύομαι/ἔρχομαι)」という言葉が繰り返されています。募金も、伝道旅行の計画も、顔と顔を合わせて、人と人とが出逢うということがなければ、教会の連帯の絆は決して深められないのです。パウロは「**手紙を持たせて、その贈り物を届けにエルサレムに行かせましょう**」と言いました。「**贈り物**」と訳されておりますギリシャ語は「**カリス**(χάρις)」が使われています。**カリス**は元々「**恵み・感謝**」という意味の言葉です。パウロは集めたお金を“**カリス**”と言って、教会と教会の交わりは、主の「**恵み**」を届けることであり、主への「**感謝**」を届けることだと言っています。更に言えば、パウロが「**わたしは、そちらへ行きます**」と言うとき、それは“**一緒に礼拝をしましょう**”と言っているのです。キリスト者が、最も深い交わりを得ることが出来るのは、恵みを分かち合うことは共に礼拝をすることに違いありません。一緒に礼拝を献げたとき、神があらゆる違いを越えて私たちを一つにしてくださるからです。パウロの献金活動は礼拝と一体であります。献金も礼拝も、どちらも、神に仕えることであるからです。

パウロは献金について語った後、旅行の計画を伝えています。この個所が絆について語っていることには触れましたが、ここでもう一つ絆を深めるために大切なことを教えています。7節「**わたしは、今、旅のついでにあなたがたに会うようなことはしたくない**」。パウロは「**ついでに会う**」ことをしません。私たちは逆の言い方をよくします。相手を気遣って、“**わざわざ来たのではなく、ついでがあったから**”と言ったりします。パウロは、私たちとは逆のことを考えています。“**つでに寄ったのではない、あなたに会うことが目的だ**”、真剣に向き合おうと思うなら「**ついで**」では相手に思いが伝わらない。“**あなたに会うために、あなたに会いたくてわたしは行きます**”ということが絆を深めようとするパウロの基本姿勢です。

パウロは今、この手紙をエフェソで書いています。これまで読みましたこの手紙を振り返るなら、コリント教会は問題だらけの教会です。「**わたしはアポロにつく**」、「**わたしはケファに**」、「**わたしはキリストに**」(1:12)という分裂の問題がありました。“**淫らな交際、偶像礼拝、弱いものへの配慮のなさ、聖餐の乱れ、礼拝の乱れ、霊の賜物についての勘違い、復活の理解の不十分さ**”もありました。コリント教会には解決しなければならない課題が山積しています。とてもついでに会って片付く状態ではありません。じっくり腰を据えて福音を教え直さなければならないでしょう。しかし、その具体的な教会の状態、パウロの心情以上に大切なことがあります。それが「**主が許してくだされば**〈ἐὰν ὁ κύριος ἐπιτρέψῃ.[**もし、主が許すなら**]〉」ということです。「**主が許してくだされば**」と言うパウロは、自分の宣教活動の全てが主の導きの下にあることを考えています。今は進む時なのか、留まる時なのか、計画を立てて御旨を問います。その計画は自分の都合ではなく御旨に従ったものでなければならないからです。私たちも、いろいろと人生の計画を立て、また日々の生活において教会生活にも為すべきことを考えます。思い通りに行くことばかりではありません。そういうとき、焦ることなく何事も「**主が許してくだされば**」と、一歩引いた思いで謙虚に事に当たることが大切でしょう。

パウロは御旨を問い、「**五旬祭まではエフェソに滞在**」することを決めます。そ

の理由は、はっきりしています。エフェソにはまだまだ伝道の進展が期待できる、しかも「**五旬祭**」は大勢の人が集まる祭りで、キリスト者にとっては『**ペンテコステ**』、聖霊が降った日です。これ以上伝道に相応しい時はありません。しかしそこには同時に「**反対者もたくさんいるからです**」とあります。伝道が前進すれば反対者も現れて来る。その反対者にこそ福音を宣べ伝えなければならないのです。エフェソに留まることは多くの反対者たちに囲まれる困難な戦いの場に身を置くことになります。パウロはその困難の中に、敢て留まろうとします。「**大きく開かれた門**」の先に見えているものは困難です。しかし、主なる神が“**門を開いてくださる**”ことにパウロは神の導きを見ているのです。反対者が増えたから教会に危機が及ぶことにもなります。パウロはエフェソに滞在することを続けて、伝道することと教会を守る牧会の両面を常に考えています。

教会をこの世に造り上げるということは一人ではできません。仲間が必要です。教会に必要なのはチーム・ワークです。エフェソを離れてコリントに出発することは出来ないパウロは弟子のテモテをコリントに派遣することにします。テモテは他の手紙でパウロから「**愛する子**」(Ⅱテモ1:2)と呼ばれるほど確かな絆で結ばれた人です。しかし、テモテはまだ若く、気も弱く、伝道者として十分な経験があったわけではありませんでした。パウロですら手を焼いているコリント教会ですから、テモテにはとても手に負えないかも知れない。若い伝道者が侮辱に痛めつけられ、不安に圧し潰されて躓いてしまうことを何より心配しています。しかし未熟であっても、真剣に働いている者に御心が顕されるのです。その姿にこそ福音を見ることが出来ます。「**主の仕事をしている**」者を「**ないがしろにしてはいけない**」、パウロは教会の人たちに、人間を外見で判断するのではなく、働きを見るように勧めます。自分自身のことを含めて、私たちの神が、欠け多き不十分な者を福音宣教のために用いられることを知っています。“**弱さの中にこそ表される御心がある**(Ⅱコリ12:9)”からです。コリント教会の人たちにテモテから“**その御心を学んで欲しい、御心を見逃さないで欲しい**”と願っているのです。

パウロは最後にアポロのことにも触れています。アポロがこの時、コリントに行くことをしなかったのは、コリント教会の中で、“**わたしはアポロにつく・パウロにつく**”といった分派争いが起こっていたからでしょう。“**自分がコリントに行くことで揉め事を大きくしたくない**”、アポロもまた自分の思いではなく教会のことを考えて御心を優先したのです。

今日から新年度が始まりました。既に私たちの教会には多くの課題も与えられています。それでも私たちは、主に結ばれているならば、私たちの労苦が決して無駄にならないことを知らされています。私たちは主の仕事のために呼び集められた者たちです。キリストの福音を信じ、福音に生き、福音を伝え、主の恵みを分かち合い、主の栄光を表す者とされているのです。福音を宣べ伝えるという主の仕事は、あらゆる人を用い尽くす力を持っています。新年度、私たちは礼拝を堅く守り、聖餐を重んじ、自分自身を主に献げて、絆を確かめ合いながら、主の仕事に励むことが出来るようにと切に願います。祈りましょう。

聖なる神、あなたはこの朝も私たちを御前に招き、御言葉によって御心を示してくださいました。感謝致します。あなたは私たちに御言葉を与えて夫々の場で、“**福音を証しせよ**”とお命じになります。私たちはあなたに自分自身をお献げしますので、どうぞ御心のままに私たちを福音に相応しく用いてください。そのために聖霊が私たちの中にいつも宿ってください。あなたが私たち一人ひとりの間に立って執り為してください。あなたの救いを信じ、私たちが主にあって一致して、主の仕事に全力を尽くすことが出来ますように。

主イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:512「主よ、献げます」

聖晩餐　使徒信条の告白　和解の挨拶

讃美歌:79「みまえにわれらつどい」

献金・感謝(山本典子)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

聖なる神さま、あなたの尊い聖名を賛美致します。今朝は、あなたの尊い御言葉を受け、そして聖餐の恵みに与ることが出来、心から感謝致します。

あなたの復活の喜びの中で、今年度も歩み出せることを心から感謝致します。また、新たな長老を迎えることが出来ましたことも感謝でございます。

今日戴いた御言葉を糧に、この一週間を歩み出し、そして今年度も、あなたの福音の業に私たちを用いてください。

あなたへの感謝と祈りを込めて、献身のしるしとして献金をお献げ致します。どうぞ、あなたの御用のために、福音の業が少しでも進むために、平和のために、これをお用い下さい。

主が教えてくださいました「**主の祈り**」を共に祈りまして、今週の歩み出しをさせてください。「**主の祈り**」…**アーメン。**

派遣:讃美歌91「神の恵みゆたかに受け」

派遣と祝福〈**司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。 会衆:私がここにおります。私をお遣わし下さい。司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。**〉

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:(1)教会は委員会組織の見直し進めているなか、これまでと同じ仕方で3月の年度末にアンケートを行うことをしなかった。現在担当している委員会を辞退されたい方、新たに参加されたい方は今年度に限って牧師に直接申し出て欲しい。新年度委員会責任者決定次第、速やかに伝えるよう努めるのでご理解ご協力を願う。(佃牧師)　(2)小川和孝牧師が牧する上山教会を支援する会からの報告とお願い:昨年度献金額60万3千円、内毎月2万円計24万円(持参)、クリスマス献金10万円(持参)、残高26万3千円。今年度も継続しての献金を願いたい。いずれ印刷物で報告の予定。(中川信長老)

後奏:「イエス・キリスト、我らの救い主、死に勝ち給いし」(J.パッヘルベル)